

DIALOG(R) File 351: DERWENT NPI
(c)1999, Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

004501481

WPI Acc No: 86-004825/198601

XRAM Acc No: C86-002261

XRPX Acc No: N86-003454

Ink jet recording material - with base material coated with ink acceptor layer(s) contg. porous, cationic hydrated aluminium oxide

Patent Assignee: MITSUBISHI PAPER MILLS LTD (MITY)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Main IPC	Week
JP 60232990	A	19851119	JP 8490019	A	19840502		198601 B
JP 91024906	B	19910404	JP 8490019	A	19840502		199118

Priority Applications (No Type Date): JP 8490019 A 19840502

Patent Details:

Patent	Kind	Lan	Pg	Filing Notes	Application	Patent
JP 60232990	A		6			

Abstract (Basic): JP 60232990 A

Material has at least 1 ink acceptor layer (I) on a base material. (I) contains porous, cationic hydrated aluminium oxide. Pref. pore dia. of oxide is 50¹-5000 A, and its content in (I) is 1-50 g/m² (esp. 3-20 g/m²). (I) may contain other filler, and binder. Filler is, e.g., calcium carbonate, kaolin, talc, calcium sulphate, titanium dioxide, zinc oxide, calcium silicate, etc. Binder is, e.g., oxidised starch, CMC, HEC, casein, gelatin, PVA, SBR, melamine resin, urethane resin, etc. Filler (total)/ binder ratio is pref. 100/2-100/100 (esp. 100/100-100/30).

USE/ADVANTAGE - Material has improved water resistance and ligh resistance of recorded image when using water based ink.

⑫ 特許公報(B2)

平3-24906

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成3年(1991)4月4日

B 41 M 5/00

B

8305-2H

発明の枚 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 インクジェット記録媒体

⑯ 特 願 昭59-90019

⑰ 公 開 昭60-232990

⑱ 出 願 昭59(1984)5月2日

⑲ 昭60(1985)11月19日

⑳ 発 明 者 宮 本 成 彦 東京都葛飾区東金町1丁目4番1号 三菱製紙株式会社中央研究所内

㉑ 出 願 人 三菱製紙株式会社 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号

審 査 官 菅 野 芳 男

㉒ 参 考 文 献 特開 昭55-144172(JP, A) 特開 昭58-24492(JP, A)

特開 昭56-84992(JP, A)

「化学大辞典1」共立出版㈱ P.434-435 昭35-3-30

「紙加工便覧」㈱紙業タイムス社 P.402 昭49-1-15

「改訂増補 最新顔料便覧」㈱誠文堂新光社 P.9 昭52-1-10

1

2

㉓ 特許請求の範囲

1 支持体上に、少なくとも一層のインク受理層が設けられてなる記録媒体に於て、該インク受理層中に多孔質のカチオン性水和アルミニウム酸化物を含有することを特徴とするインクジェット記録媒体。

㉔ 発明の詳細な説明

本発明はインクを用いて記録する記録媒体に関するものであり、特に媒体上に記録された画像や文字の濃度が高く、色調が鮮明で、かつインクの吸収能力が優れた、特に多色記録に適したインク

ジェット用記録媒体に関するものである。

インクジェット記録方式は、インクの微小液滴を種々の作動原理により飛翔させて、紙などの記録媒体に付着させ、画像、文字などの記録を行うものであるが、高速、低騒音、多色化が容易、記録パターンの融通性が大きい、更に現像、定着が不要時の特徴があり、漢字を含め各種図形及びカラー画像等の記録装置として、種々の用途に於いて急速に普及している。更に、多色インクジェット方式により形成される画像は、製版方式による多色印刷や、カラー写真方式による印画に比較して選色のない記録を得ることも可能であり、作成

部数が少なくて済む用途に於いては、写真技術によるよりも安価であることからフルカラー画像記録分野にまで広く応用されつつある。

このインクジェット記録方式で使用される記録媒体としては、通常の印刷や筆記に使われる上質紙やコート紙を使うべく装置やインク組成の面から努力がなされて来た。しかし、装置の高速化、高精細化あるいはフルカラー化などインクジェット記録装置の性能の向上や用途の拡大に伴ない、記録媒体に対してもより高度な特性が要求されるようになった。すなわち、当該記録媒体としては、インクドットの濃度が高く、色調が明るく彩やかであること、インクの吸収が早くインクドットが重なった場合に於いてもインクが流れ出したり滲んだりしないこと、インクドットの横方向への拡散が必要以上に大きくなく、かつ周辺が滑らかでぼやけないこと。更に記録画像が紫外線や空気中の酸素又は水に曝された場合の染料の抵抗性を低下させず、好ましくは増強させること等が要求される。

これらの問題を解決するために、従来からいくつかの提案がなされて来た。例えば特開昭52-53012号には、低サイズの前紙に表面加工用の塗

料を湿潤させてなるインクジェット記録用紙が、また、特開昭53-49113号には、尿素-ホルマリン樹脂粉末を内添したシートに水溶性高分子を含浸させたインクジェット記録用紙が開示されている。これらの一般紙タイプのインクジェット記録用紙は、インクの吸収は速やかであるが、ドットの周辺がぼやけ易く、ドット濃度も低いと言う欠点がある。

また、特開昭55-5830号には、支持体表面にインク吸収性の塗層を設けたインクジェット記録用紙が開示され、また、特開昭55-51583号では被覆層中の顔料として非膠質シリカ粉末を使つた例が、更に特開昭55-11829号ではインク吸収速度の異なる2層構造を使つた塗抹紙の例が開示されている。これらのコーテッド紙タイプのインクジェット記録用紙は、ドット径やドットの形状、ドット濃度や色調の再現性と言つた点では一般紙タイプのインクジェット用紙より改良されているが、これらの記録媒体に適用されるインクは水溶性染料を使つた水性インクが多く、記録媒体上に形成された画像に水等がかかった場合、染料が再び溶解して滲み出したりして記録物の価値を著しく減少させる問題点がある。

そこで、この欠点を改良するために、例えば特開昭55-53591号には金属の水溶性塩を記録面に付与する例が、また特開昭56-84992号にはポリカチオン高分子電解質を表面に含有する記録媒体の例が、また、特開昭55-150396号にはインクジェット記録後、該インク中の染料とレーキを形成する耐水化剤を付与する方法が、そして更に、特開昭56-58869号には水溶性高分子を塗布した記録シートにインクジェット記録後、該水溶性高分子を不溶化することによつて、耐水化する方法が、それぞれ開示されている。

ところが、これらの耐水化法は耐水化の効果が弱かつたり、耐水化剤が染料と何らかの反応を起し染料の保存性を低下させたりして、十分な耐水性と耐光性を両立させることはなかなか困難であつた。

ここに本発明者は、水性インク画像の耐水性及び耐光性を改善し、前述したような高速、高精細なインクジェット画像の得られる記録媒体を得るために、種々検討した結果、上記目的を達することに成功し本発明をなすに到つた。

即ち、本発明者は、インクジェット用水性インクを記録媒体に噴射して記録画像を得るインクジェット記録方法に於いて、該記録媒体が少なくとも一層のインク受理層を持ち、該インク受理層中に多孔質のカチオン性水和アルミニウム酸化物を含有することによつて、水溶性染料の耐水性及び耐光性の優れた、高濃度、高精細な多色画像形成に適した能力を持つ記録媒体が出来ることを見出したものである。

本発明により、前記カチオン性水和アルミニウム酸化物を含有せしめたインクジェット記録媒体がなぜ水溶性染料の耐水性を向上させ、かつ耐光性も改善出来るのかは定かではない。ただ、インクジェット用インクにはアニオン性解離基を有する直接染料または酸性染料を含有する水性インクが多く使用され、該インク中のアニオン性染料と記録媒体中のカチオン性水和アルミニウム酸化物のカチオン性表面との間のイオン性吸引力が関与していることは推測される。

本発明で使用する多孔質のカチオン性水和アルミニウム酸化物は、硫酸アルミニウム、硝酸アルミニウム、塩化アルミニウム及びその類似物のようなアルミニウム塩か、アルミン酸のナトリウムもしくはカリ塩のようなアルミン酸アルカリ金属塩あるいはその両者の水溶性アルミニウム化合物の水溶液から中和あるいはイオン交換樹脂を用いてイオン交換して得られたゲル、これをヒドロゲルと云うが、を通常は洗浄して塩類を除去し、次に乾燥を行つて、キセロゲルにすることによつて得られたものを云う。乾燥にスプレー乾燥等を使うことにより塗工液に配合するに好適な粉末状にすることが出来る。またブロック状で乾燥した後で粉碎、分級を行うことで粉末状にすることも可能である。この様にして乾燥後得られる水和酸化物は、遊離水分の全部とまではいかなくとも、そのほとんどが除去されており、また結合水分も通常は幾分か除去され、構造の大部分が不可逆的にセツトされて、多孔質の固体となる。この様にして得られた多孔質の固体の細孔直径は通常50Å~5000Åであり、二次粒子の水中に分散させた場合の表面電荷はプラスチャージ（カチオン性）となる。

前記カチオン性水和アルミニウム酸化物の記録媒体中の含有量は1g/ml~50g/ml、好ましく

5

は $3 \text{ g} / \text{ml} \sim 20 \text{ g} / \text{ml}$ であり、あまり少ないと水溶性染料の耐水化の効果が弱い。多い分には特に制限する必要はないが、性能及びコストの点から前述の範囲で充分である。

本発明で言うインク受理層とは前記カチオン性水和アルミニウム酸化物及び必要ならその他の空隙構成材料及び接着剤とから適当な支持体の上に構成されたインク吸収能力を持つ凹状の形成層を指す。

空隙構成材料としては、例えば炭酸カルシウム、カオリン（白土）、タルク、硫酸カルシウム、硫酸バリウム、酸化チタン、酸化亜鉛、炭酸亜鉛、ケイ酸アルミニウム、水酸化アルミニウム、酸化アルミニウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、非晶質シリカ、及びプラスチックビグメント、尿素樹脂顔料等の無機系、有機系の顔料及びこれらを併用することも可能である。

これらの顔料を支持体上に塗布してインク受層を形成するには、空隙構成材料を支持体に接着させるための接着剤が必要である。接着剤としては、例えば、酸化澱粉、エーテル化澱粉、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース等のセルロース誘導体、カゼイン、ゼラチン、大豆タン白、ポリビニルアルコール及びその誘導体、無水マレイン酸樹脂、通常のスチレンーブタジエン共重合体、メチルメタクリレートーブタジエン共重合体等の共役ジエン系重合体ラテックス、アクリル酸エステル及びメタクリル酸エステルの重合体又は共重合体等のアクリル系重合体ラテックス、エチレン酢酸ビニル共重合体等のビニル系重合体ラテックス、或はこれらの各種重合体のカルボキシル基等の官能基含有単量体による官能基変性重合体ラテックス、メラミン樹脂、尿素樹脂等の熱硬化合成樹脂系等の水性接着剤、及びポリメチルメタクリレート、ポリウレタン樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、塩化ビニルー酢酸ビニルコポリマー、ポリビニルブチラール、アルキッド樹脂等の合成樹脂系接着剤が、単独あるいは複合して用いられる。これらの接着剤は顔料100部に対して2部~100部、好ましくは5部~30部が用いられるが顔料の結 に充分な量であればその比率は特に限定されるものではない。しかし、100部以上の接 剤を用いると接 剤の造膜により、空隙構造を減らし、あるいは空隙を極端

に小さくしてしまうため、好ましくない。

更に必要ならば顔料分散剤、増粘剤、流動性変性剤、消泡剤、抑泡剤、離型剤、発泡剤、浸透剤、着色染料、着色顔料、蛍光増白剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、防バイ剤、等を適宜配合することも出来る。

支持体としては、紙または熱可塑性樹脂フィルムの如きシート状物質が用いられる。紙の場合はサイズ剤無添加あるいは適度なサイジングを施した紙で、填料は含まれても、また含まなくてもよい。

また、熱可塑性フィルムの場合はポリエステル、ポリスチレン、ポリ塩化ビニル、ポリメチルメタクリレート、酢酸セルロース、ポリエチレン、ポリカーボネート等の透明フィルムや、白色顔料の充填あるいは微細な発泡による白色不透明なフィルムが使用される。充填される白色顔料としては、例えば酸化チタン、硫酸カルシウム、炭酸カルシウム、シリカ、クレイ、タルク、酸化亜鉛等の多くのものが使用される。

また紙の表面にこれらの樹脂フィルムを貼り合せたり溶融樹脂によつて加工したいいわゆるラミネート紙等も使用可能である。これらの樹脂表面とインク受理層の接着を改善するための下引層やコロナ放電加工等が施されていてもよい。

これらの支持体上に設けるインク受理層を顔料塗液等を塗抹して形成する場合には、塗工機として一般に用いられているブレードコーター、エアナイフコーター、ロールコーター、ブラツシュコーター、カーテンコーター、バーコーター、グラビアコーター、スプレー装置等が通常用いられる。更に支持体が紙の場合には抄紙機上のサイズプレス、ゲートロール、スプレー等を適用することも可能である。支持体上にインク受理層を設けただけのシートは、そのままでも本発明による記録用シートとして使用出来るが、例えばスーパーカレンダー、グロスカレンダーなどで加熱及び/又は加圧下ロールニツプ間を通して表面の平滑性を与えることも可能である。この場合、スーパーカレンダー加工による過度な加工は、せつかく形成した粒子間の空隙によるインク吸収性を低下させることになるので加工程度は制限されることがある。

実施例中の諸物性値の測定は下配の要領で行な

つた。先ずシャープ製インクジェットプリンター (IO-700) を使用してシアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y)、ブラック (B) の各インクでベタ印字して得た画像について、流水に5分間浸漬し、浸漬前後の画像濃度をマクベスデンシトメーター RD514 で測定し、浸漬後濃度を浸漬前濃度で除した百分率を耐水性の尺度とした。また同様にして得たベタ画像を、キセノンフェードメーター (スガ試験機社製、FAL-25X-HCL 型) で 40℃、60%、照度 63W/㎡ で 40 時間照射し、照射前後の色濃度をマクベスデンシトメーター RD514 で測定し、照射前後の濃度の百分率を耐光性の尺度とした。耐光性、耐水性とも数値が高い程良好である。ドット径とは同じインクジェットプリンターの黒色インク部の単一ドットの面積を網点面積計にて測定し、真円と仮定した面積に直してその直径として算出した値を用いた。またインク吸収速度は同じカラーイメージプリンターを用いて赤印字部 (マゼンタ+イエロー) をベタ印字直後 (約 1 秒後) にペーパー押えロールに接触させ、汚れが出るか出ないかで判定した。更にインク吸収能力は同じインクジェットプリンターのベタ印字部境界の滲み出し程度によって判をした。

以下に本発明の実施例を挙げて説明するがこれらの例に限定されるものではない。尚、実施例に於いて示す部及び%は重量部及び重量%を意味する。

実施例 1

カチオン性水和アルミニウム酸化物を下記要領で作成した。

8% Al_2O_3 を含有する硫酸アルミニウム溶液の 3130 部及びアルミン酸ナトリウムの 26% Al_2O_3 溶液の 2080 部を、pH 7~7.5 でアルミナヒドロゲルを沈殿させるために 11250 部の水の中に攪拌しながら同時に注入した。次いで過剰のアルミン酸ナトリウムを加えて pH を 10.5 に調節し、アルミナヒドロゲルを濾過し、pH 10.5 で洗浄してナトリウム及び硫酸塩を除去した。このケーキを再分散し、pH 7~8 で濾過してナトリウム分を 0.1% 以下まで低下させた。こうして作ったケーキを 10% の濃度で再スラリー化し、スブレードライヤーにて入口温度 180° で乾燥し、平均二次粒子径 4 μm のキセロゲルを得た。このキセロゲルは 1.04 ml/g の細

孔容積を有していて、水中に分散したもののゼータポテンシャルは +28 mV の、本発明で使用出来る多孔性のカチオン性水和アルミニウム酸化物であつた。

5 顔料として軽質炭酸カルシウム (ユニバー 70、白石工業製) 80 部、重質炭酸カルシウム (エスカロン 200、三共精粉製) 20 部、分散剤 (アロン T520、東亜合成製) 0.1 部、酸化澱粉 (MS3800、日本食品製) 15 部、上記で作成したカチオン性水和アルミニウム酸化物 100 部から成る濃度 20% の塗工液を作成し、エアナイフコーターで乾燥固型分 25 g/㎡ になるように原紙に塗工し、スーパーカレンダーを通して、表面を平滑にして実施例 1 の記録用紙を得た。得られた記録用紙の評価結果を表 1 に示す。

実施例 2

カチオン性水和アルミニウム酸化物を下記要領で作成した。

50 硫酸アルミニウム水溶液 (Al_2O_3 として 8%) 10% を水 7000 g に希釈し、攪拌しながら 95℃ に加温した。この溶液に水酸化ナトリウム 320 g を溶解して加え pH 11.0 とした後、60 分間熟成してアルミナヒドロゲルスラリーを生成した。次いで、このスラリーに硝酸アルミニウム水溶液 (Al_2O_3 として 8%) 400 g を加えて pH を 4.5 とし 5 分間保持した後、再び水酸化ナトリウムを加えて pH を 11 としアルミナヒドロゲルスラリーを得た。

このスラリーを濾過、圧さく、乾燥し、粉碎処理して、平均 2 次粒子径 8 μm の酸化物粉末を得た。この酸化物についてその細孔分布を水銀圧入法により求めたところ 300 Å に細孔のピークを持ち、0.93 ml/g の細孔容積を有していた。またこれを純水に分散し、ゼータポテンシャルを求めたところ、+34 mV のカチオンチャージを有していた。

40 坪量 78 g/㎡、ステキヒトサイズ度 21 秒のコート原紙に、上記で作成したカチオン性水和アルミニウム酸化物 100 部、ポリビニルアルコール 15 部からなる塗工液を固型分 15 g/㎡ になるようにエアナイフコーターで塗抹、乾燥し、スーパーカレンダーを通して表面を平滑にして実施例 2 の記録用紙を得た。得られた記録用紙の評価結果を表 1 に示す。

比較例 1

ボーキサイトを苛性ソーダで処理するバイヤー法による水和アルミニウム酸化物（昭和電工製ハイジライトH30、平均2次粒子径 10μ ）100部、ポリビニルアルコール15部からなる塗工液を固型分15g/㎡になるように、坪量78g/㎡のコート原紙にエアナイフコーターで塗抹、乾燥し、スーパーカレンダーを通して表面を平滑にして比較例1の記録用紙を得た。得られた記録用紙の評価結

果を表1に示す。

比較例 2

実施例1で調成したカチオン性水和アルミニウム酸化物の代りに、ペーパーピグメント用水和アルミナ（アルコア社製ハイドラル705）を使用した他は実施例1と全く同様にして比較例2の記録用紙を得た。得られた記録用紙の評価結果を表1に示す。

表

1

項目 記録用紙	耐水性(%)				耐光性(%)				ドット 径 (μm)	インク吸 収速度	インク吸 収能力
	M	C	Y	BI	M	C	Y	BI			
実施例 1	70	82	99	100	77	89	97	87	199	○	○
" 2	83	97	99	99	79	87	95	82	197	○	○
比較例 1	21	16	66	98	78	86	96	83	260	○	○
" 2	24	15	62	93	80	88	92	80	211	○	○

表1の結果から、カチオン性水和アルミニウム酸化物を使用した実施例1、2の記録用紙は耐水

性、耐光性共に優れていることが認められる。